第522号

学校だより

横浜市立初音が丘小学校

8・9月号

http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/hatsunegaoka/　令和 4年 8月 29日

はっきりと発信する　つよく追究する　ねばり強く　かがやくつながる　おもいや願いを実現しようとする　かがやく課題解決する

「未来を生きる子どもたち」

副校長　坂本　陽子

今年は、３年ぶりに行動制限のない夏休みでした。スポーツ大会や音楽、演劇鑑賞なども、ルールを設けながらも開催していくという流れになってきました。高校野球夏の大会では、東北に初の大優勝旗が運ばれ盛り上がったとの明るいニュースが聞かれました。

私が小学生だった頃は、（もう４０年ほど前ですが）「勉強は午前中の涼しいうちにやりましょう」と、学校の先生がよく言っていましたし、１０時迄は遊びに行ってはいけないというルールが記憶にあります。今年の夏も、朝から気温が高く午前９時には３０度を超えている日が多くありました。日本も地球温暖化による気候変動によって様々な変化が引き起こされています。大雨、河川洪水、台風、土砂崩れ、降雪、高潮、地震等、一年を通して自然災害の話題も多く聞かれるようになってきました。また、気温上昇の影響で農作物の価格が上昇しているものもあるようです。

春から夏に植物の葉や果実に高温や強日射が原因で起こる「高温障害」で被害を受ける作物が多くなっていることも、安定的な供給ができない理由の一つです。高温障害は、トマトや稲のような品種によく見られると言われ、様々な症状が現れます。これによって、形が不揃いで出荷の際に振り分けられる作物が規格外野菜です。大部分が店頭には並ばずに廃棄処分され、食べられるのに捨てられ「食品ロス」の問題にもなっています。

保土ヶ谷区は、農地が広がっている地域もあり、明治期にはジャガイモの産地として種芋を全国に発送していたそうです。今は、区内で生産される農作物としては、１位のキャベツに次ぐ生産量があるそうです。

本校では、地域の方に、登下校の見守り、学習活動、給食など様々な場面でお力を貸して頂いています。特に、植物、野菜、米の育て方をゲストティーチャーとして教えていただいたり、竹、笹を使って物づくりや七夕などの飾り付けのために素材を提供していただいたりしています。今年の６・７月に給食のメニューで使われたジャガイモは全て、「ほどじゃが」と言われる保土ヶ谷区で収穫されたものです。身近な農作物を食べたり、自分で育てたりすることで、「食」への関心や知識が高まると思います。

「気候変動」「高温障害」「食品ロス」「地産地消」「身近な人とのつながり」・・・これらのキーワードはどれも持続可能性に関連したとても大切な課題です。横浜市でもＳＤＧｓの目標に関連付けた学習を計画する方向にあります。学校生活の中で、このような課題に関心をもち、知恵を働かせ、協働しながら学び続ける子どもを育んでいきたいと考えています。

夏休み明け、各家庭での生活から学校という集団生活に切り替わっていくこの時期、急がず、慌てず、ゆったりとした心で進んで参りましょう。

～すべては、子どもたちの笑顔のために～